

## 植込み型デバイス登録・評価委員会セッション

2月11日(日)

第1会場 8:30～10:00

JID-CAD 登録データの報告と未来のデバイス評価に向けて  
現状と過去10年

座長 清水 昭彦 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻  
三橋 武司 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科

## 演者

1. JID-CAD 登録データからの報告  
三橋 武司 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科
2. 本邦における心臓再同期療法(CRT)の現状－CRT-D vs CRT-P  
横式 尚司 北海道大学病院循環器内科
3. デバイス植込みの合併症－update－  
西井 伸洋 岡山大学大学院医歯学総合研究科循環器内科
4. デバイス登録患者の臨床背景の変遷－合併症・投与薬剤を中心に－  
清水 昭彦 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻

日本不整脈心電学会では2006年よりJCDTR (Japan Cardiac Defibrillator Treatment Registry) 登録を開始し、その結果から、諸外国と比較して我が国の冠動脈疾患患者特に一次予防でのICD植込み率が低いことを指摘してきた。2014年からは、我が国の冠動脈疾患の植込み型デバイスの実態を明らかにするために、冠動脈疾患患者を対象とした前向き登録JID-CAD (Japan Implantable devices in patients with coronary artery disease) を開始し、現在観察期間中である。そこで、今回のデバイス登録評価委員会では10年にわたるJCDTR研究から植込みデバイスを植込まれる患者背景(合併症や投与薬剤の変遷を中心に)、CRT-DとCRT-Pを対比させての心臓再同期療法の現状、近年問題となっているデバイス植込み合併症のUpdateを報告する。また、患者登録が終了したJID-CADに登録された患者の登録時の患者背景を検討して、冠動脈疾患における我が国のデバイス治療の現状を報告する。

## 植込み型デバイス関連社会問題対策委員会・安全対策委員会合同セッション

2月11日(日)

第1会場 15:10～18:10

## 【第1部】植込み型デバイスリードに関連した諸問題

座長 中島 博 一般財団法人日本デバイス治療研究所  
草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科

## 演者

1. 不全リードへの対処  
西井 伸洋 岡山大学大学院医歯学総合研究科循環器内科
2. リコールリードへの対処  
合屋 雅彦 東京医科歯科大学不整脈センター

3. HRS エキスパートコンセンサス改訂の要点

今井 克彦 呉医療センター・中国がんセンター心臓センター心臓血管外科

4. 植込み型デバイス関連安全対策委員会活動報告

リード抜去手術に対するステートメント改訂, リード抜去レジストリ

草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科

## 【第2部】植込みデバイス患者のMRI撮像

座長 安部 治彦 産業医科大学医学部不整脈先端治療学講座

草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科

### 演者

1. 植込みデバイス患者のMRI撮像の実情と注意すべきこと

藤本 裕 日本不整脈デバイス工業会電磁干渉委員会

日本メドトロニック株式会社 CRHF 事業部 CRHF 製品教育部

2. MRI対応植込みデバイスとMRI撮像に関するこれまでの経緯

新田 隆 日本医科大学心臓血管外科

3. 植込みデバイス患者のMRI撮像に関するHRSガイドライン

安部 治彦 産業医科大学医学部不整脈先端治療学講座

4. 3学会およびJADIAによる統一カリキュラム制度に開始と今後について

草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科

第1部の植込み型デバイス安全対策委員会のシンポジウムでは、昨年に引き続きデバイスリードに関する諸問題を取り上げ、とくに不全リードやリコールリードへの対応、リード抜去術に対する最新のHRS expert consensusや学会の取り組みを紹介します。

2012年に登場した条件付きMRI対応デバイスは急速に臨床の場に浸透していますが、メーカー毎に異なった研修やデバイス設定が必要など、様々な条件付き項目があり、医師、技師、ナース、患者あるいは家族の誤解により不適切な撮影が計画されるというケースが散見されています。日本医学放射線学会(JRS)、日本磁気共鳴医学会(JSMRM)、日本不整脈心電学会(JHRS)の3学会合同で植込みデバイス患者のMRI撮影に関する注意を呼び掛けていますが、事故防止に向けて更なる取り組みが必要と考えています。そこで今回、第2部では、植込み型デバイス関連社会問題対策委員会と植込み型デバイス安全対策委員会の合同セッションを企画し、MRI撮影に関する諸問題について、現状の問題点および上記3学会およびJADIAによる統一カリキュラム制度の発足など、MRI撮影に関する事故防止に向けて学会からの取り組みを紹介する予定です。さらに、非MRI対応デバイスに関するHRS expert consensusも紹介し、今後のMRI撮影の在り方を議論したいと思います。

## 植込み型デバイス教育・認定委員会セッション

2月12日(月)

第1会場 10:30～11:30

### 「心臓電気植込みデバイス認定士」への期待

**座長** 栗田 隆志 近畿大学医学部附属病院心臓血管センター  
梅津 努 筑波大学附属病院看護部血管造影室(デバイス外来)

#### 演者

1. 認定制度発足にあたり  
栗田 隆志 近畿大学医学部附属病院心臓血管センター
2. 認定制度の現状と本認定制度の活用について(臨床工学技士から)  
堺 美郎 済生会熊本病院臨床工学部門
3. デバイスケアに参加する難しさ(看護師から)  
菅 令子 鳥取県立中央病院看護局
4. 看護師だからこそ取得して欲しい本認定制度  
繁平 和子 国立循環器病研究センター看護部
5. 心臓電気デバイス認定士規約詳細  
梅津 努 筑波大学附属病院看護部血管造影室(デバイス外来)

近代的心臓電気デバイス(CIED)の多機能化、高性能化は不整脈患者さんにとって多大な恩恵をもたらしました。しかし、その一方で、息もつかせぬようなCIEDの発展は専門医にとって、その展開に追従することを困難にしています。日常の臨床において、CIED領域におけるメディカルプロフェSSIONAL(MP)のサポートは必要不可欠のものとなり、チーム医療として活動しなければ、CIEDの機能を十分に活用することはできません。また、2017年のデバイス関連冬季大会へのMPの参加者数は886人であり、全体の半数を超え、CIEDへの関心が高まっていることを示しています。

MPに関する専門制度については臨床ME専門認定士とCDR認定制度がありますが、CIEDに特化して、その管理を専門とするMPを認定する包括的制度はありませんでした。このたび、MPの方々から新たな認定制度の創設が必要であるとの強い要望が寄せられ、日本不整脈心電学会において「心臓電気植込みデバイス認定士制度(仮称)」の創設が決定されました。今回は本大会長の石川利之先生のご高配により、本制度の必要性と今後の展開について会員の皆様に広く紹介する機会を頂戴いたしました。たくさんのMPの方々のご参加を心からお待ちしております。

## 小児植込み型デバイス委員会セッション

2月12日(月)

第1会場 15:10～16:40

### 小児におけるデバイス治療の問題点

**座長** 住友 直方 埼玉医科大学国際医療センター小児心臓科  
宮崎 文 天理よろづ相談所病院小児循環器科

#### 演者

1. 本邦における小児デバイス治療の現状  
朝海 廣子 東京大学医学部附属病院小児科
2. 小児に対するWCDの適応と問題点  
今村 知彦 埼玉医科大学国際医療センター小児心臓科
3. 小児に対するSICDの適応と問題点  
吉田 葉子 大阪市立総合医療センター小児不整脈科
4. 小児に対するILRの適応  
河野 律子 産業医科大学医学部不整脈先端治療学
5. 小児における心外膜リードの耐久性  
佐藤 要 東京大学医学部附属病院小児科

本年度は、新しいデバイスである着用型除細動器(WCD)、皮下植込み型除細動器(SICD)、植込み型ループレコーダー(ILR)の小児への応用、その問題点を中心のテーマとした。WCDはICD植込みまでのブリッジとして開発されたが、試用期間が3ヵ月と短いこと、サイズが大きく、小児の使用には制限がある。SICDもサイズが大きいたことが問題となるが、徐脈に対するペーシングが不必要なことの多い小児例では今後の適応拡大が期待される。ILRはサイズが小さくなり、原因不明な失神患者に対する応用が進んでいるが、小児に植込んだ場合の問題点を取り上げる。また、本邦での小児デバイス治療の最新の現状、心筋電極の耐久性の問題も取り上げた。多くの医師、臨床工学技士の参加を期待する。